

政策体系	政策No.	4	政策名	育み磨きあうまちづくり			施策主管課	教育総務課	
	施策No.	4	施策名	文化の振興	重点施策		施策主管課長名	木野田 隆	
施策関係課名		総務課、観光課、学校教育課、文化振興課							
1 基本計画期間(平成25年度～平成29年度)における施策の方針									
<p>■芸術文化振興については、市民の自発的な文化活動を支援する。また、多様化する市民ニーズに対応した文化活動を推進するとともに、平成27年度に開催される国民文化祭鹿児島大会を契機に、芸術・文化に対する関心をさらに高め、日常生活にゆとりと潤いを感じることのできる文化の薫り高いまちづくりを目指す。</p> <p>■地域や保存団体が主体となって郷土芸能をはじめとする無形文化財を保存・継承するとともに、市民が文化財を学び知る機会を設け、郷土づくりの意識や自発的な保存活動の高まりを促すため、文化財や地域で行っている伝統文化活動を広く周知するための広報活動の強化に努める。また、市内に点在している文化財や埋蔵文化財などの調査を進めるとともに、保存・活用及び整備を図る。</p>									
2 施策の目的と成果把握									
① 対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		市民							
② 対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	人口	人	見込み値	129,098	129,328	129,558	129,788	129,897	130,000
			実績値	127,475	127,283	126,773			
③ 意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)		芸術・文化及び文化財に親しむ							
④ 成果指標 (意図の達成度を表す指標)		◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%～105%未満) △目標を未達成(95%未満)							
		単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	芸術・文化に親しんでいる市民の割合	%	成り行き値	53.0	53.0	53.0	53.0	53.0	53.0
			目標値	60.0	54.5	55.0	55.5	56.0	56.5
			実績値	59.4	60.6	56.2			
			達成率	99%	111%	102%			
			結果	○	◎	○			
B	過去一年間の各種芸術文化事業の実践者及び鑑賞者の人数	人	成り行き値	94,000	94,000	94,000	94,000	94,000	94,000
			目標値	94,000	94,500	95,000	95,500	96,000	96,500
			実績値	95,516	103,714	102,783			
			達成率	102%	110%	108%			
			結果	○	◎	◎			
C	文化財に親しんでいる市民の割合	%	成り行き値	77	77	77.0	77	77	77
			目標値	77.0	77.2	77.4	77.6	77.8	78.0
			実績値	76.3	74.8	75.5			
			達成率	99%	97%	98%			
			結果	○	○	○			
D	過去一年間の文化財保存・伝承活動の実践者及び参加者の人数	人	成り行き値	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
			目標値	12,000	12,200	12,400	12,600	12,800	13,000
			実績値	11,479	13,390	10,430			
			達成率	96%	110%	84%			
			結果	○	◎	△			
⑤ 成果指標の測定方法 (実際にどのように実績を把握するか)				⑥ 平成29年度の目標値設定の考え方					
<p>A 芸術・文化に親しんでいる市民の割合 ※総合計画進行管理に係る市民意識調査</p> <p>B 過去一年間の各種芸術文化事業の実践者及び鑑賞者の人数 ※芸術文化団体(文化協会、少年少女合唱団、神楽振興会等)の所属人数及び市民音楽祭、国際音楽祭、美術展、写真展等の鑑賞者数</p> <p>C 文化財に親しんでいる市民の割合 ※総合計画進行管理に係る市民意識調査</p> <p>D 過去一年間の文化財保存・伝承活動の実践者及び参加者の人数 ※初午祭、天孫降臨霧島祭、史跡めぐり、山々野ウォーキング等の参加者数及び郷土芸能保存団体の所属人数並びに各郷土館の入場者数</p>				<p>A 芸術鑑賞や美術展、写真展などの公募による発表の場を提供することで、「芸術・文化に親しんでいる市民の割合」については、平成23年度実績値の53.2%から3.3ポイントの成果向上を目指す。</p> <p>B 芸術鑑賞や美術展、写真展などの公募による発表の場を提供することで、「過去一年間の各種芸術文化事業の実践者及び鑑賞者の人数」については、平成23年度実績値の94,776人から1,724人の増加を目指す。</p> <p>C 各種刊行物の発行及び広報誌による文化財の紹介、史跡めぐりなどを通して、文化財にふれたり実践できる環境を整えることで、「文化財に親しんでいる市民の割合」については、平成23年度実績値の77.3%から0.7ポイントの成果向上を目指す。</p> <p>D 各種刊行物の発行及び広報誌による文化財の紹介、史跡めぐりなどを通して、文化財にふれたり実践できる環境を整えることで、「過去一年間の文化財保存・伝承活動の実践者及び参加者の人数」については、平成23年度実績値の12,012人から988人の増加を目指す。</p>					

3 基本計画期間で解決すべき施策の課題(総合計画書より)

- 芸術文化活動団体の発表の場の提供や、文化協会などの既存団体との連携を図ることで、それぞれの団体が活発化するように働きかける必要がある。
- 自主文化団体や個人が活発に芸術文化活動ができるように、環境を整備していく必要がある。
- 舞台芸術鑑賞事業等の開催に併せて、専門家(出演者)によるワークショップ(演技指導など)を取り入れるなど、市民が芸術文化にふれるきっかけや関心を持つような取組を展開していく必要がある。また、児童生徒の芸術鑑賞事業については、教育課程内での実施の可能性も含めて検討していく必要がある。
- 優れた芸術作品等にふれる機会を市民に提供していく必要がある。
- 文化財の大切さや重要性を市民に知ってもらう必要がある。
- 年次的に文化財調査を実施し、その調査成果を基に保存・活用していく必要がある。
- 地域の歴史に精通した人材を文化財調査に活用するなど、地元と連携した保護活動を展開していく必要がある。
- 郷土芸能の保存・継承については、学校や自治会を活用するなど、後継者確保の対策を講じる必要がある。また、郷土芸能の活性化を図るため、保存団体の組織化を進める必要がある。

4 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による市民と行政の役割分担)

ア)行政の役割 (市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)	イ)市民(住民、事業所、地域、団体等)の役割
<ul style="list-style-type: none"> ■芸術文化に関する鑑賞の場の提供や活動の機会を増やし、芸術文化に親しむ環境づくりに努める。 ■市民に対して地域の歴史や文化を知る機会や学ぶ場を提供し、文化財に対する理解を深める。 ■文化財を後世に遺すため、調査・研究・記録保存を行うとともに、環境を含めた整備を実施する。 ■地域や保存団体と連携して、郷土芸能を活用した地域づくりやコミュニケーションづくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■市民 <ul style="list-style-type: none"> ・知識、教養を高めるため、いろいろな芸術に触れる。 ・文化財を大事にする心を持つ。 ・連綿と受け継がれてきた伝統文化を家庭や地域ぐるみで守り育てる。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

- 生涯学習の一つとして、芸術文化を鑑賞したり、実践する市民が増えてきており、文化協会などの既存の団体に加入せずに個人で芸術文化活動を行う人が増えていくと予想される。
- 近年の急激な都市化や核家族化、生活様式の欧米化などにより、市民が伝統文化に触れる機会が減少している。
- 古来より連綿と受け継がれてきた郷土芸能や風俗・習慣など、地域の核となるような伝統行事の存続が危機的状況にある。
- 文化財に対する愛護精神の低下や開発行為等により、消失する文化財が出てくる恐れがある。

③ この施策に対して市民(対象者、納税者、関係者等)、議会からどのような意見や要望が寄せられているか?

- 文化施設の整備・充実を図ってほしい。
- 芸術文化に関する鑑賞の場や活動のできる環境をつくってほしい。
- 議会や保存団体から、伝統文化(郷土芸能・年中行事)の継承活動に要する経費について、今後も補助金として支援してほしいとの要請がある。
- 霧島市の文化財は、その質・量とも豊富であり、これを総合的な見地から保存・整備を進めることが大事であるとの市民からの意見がある。
- 郷土の歴史・文化に関心を持つ市民が多く、資料の請求や史跡めぐりの開催などの要望が多い。

5 施策の現状

① 平成26年度施策の取組方針	② 平成26年度施策の取組方針の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ■平成27年度の第30回国民文化祭鹿児島大会の開催に向けて、既存の団体の活性化が図られるような事業を展開する。 ■平成24・25年に国指定となった「天降川流域の火砕流堆積物」と「大隅正八幡宮境内及び社家跡」の整備計画の作成と市民への周知するための史跡めぐりや特別展の実施を展開する。また、大隅国建国1300年を契機として、大隅国府の解明にむけた発掘調査を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■文化協会は2回目の実施となる文化講演会や、西郷公園の展示スペースを活用して、独自の発表の場の確保に取り組んだ。これらに代表されるように各文化関係団体が、創造性に富んだ活動を展開できた。 ■「大隅正八幡宮境内及び社家跡」の保存管理計画策定に向け、調査研究を進めながら、専門家による委員会を開催した。また、市民に文化財に親しんでもらう一番大きな機会となる、「きりしま歴史散歩」はバラエティ豊かな内容で開催し、多くの市民に関心を寄せていただいた。

③ 平成26年度施策の目標値と実績値の比較		④ 平成26年度施策の成果指標の達成状況及び要因																																								
目標達成 ◎ 105%以上 目標をほぼ達成 ○ 95%～105%未満 目標を未達成 △ 95%未満		A 「芸術・文化に親しんでいる市民の割合」は、目標値を1.2ポイント上回った。この要因としては、平成27年度に全県下で開催される「国民文化祭」に向けた気運の盛り上がり影響したものと思われる。 B 「過去一年間の各種芸術文化事業の実践者及び鑑賞者の人数」は、目標値を7,783人上回った。その要因としては、市民会館指定管理者の実施した自主文化事業の入場者が増加したことが主因であると考えられる。 C 「文化財に親しんでいる市民の割合」は、目標値を1.9ポイント下回った。要因としては、前年度まで取り組んできた「大隅国建国1300年記念事業」終了の反動が影響したものと思われる。 D 「過去一年間の文化財保存・伝承活動の実践者及び参加者の人数」は、目標値を1,970人下回った。要因としては、「大隅国建国1300年記念事業」終了により、イベント、各種講座等の参加者が減少したことが考えられる。																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">平成26年度成果指標</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>55.0</td> <td>56.2</td> <td>102.0%</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>95,000</td> <td>102,783</td> <td>108.0%</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>77.4</td> <td>75.5</td> <td>98.0%</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>12,400</td> <td>10,430</td> <td>84.0%</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>F</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				平成26年度成果指標					目標値	実績値	達成率	結果	A	55.0	56.2	102.0%	○	B	95,000	102,783	108.0%	◎	C	77.4	75.5	98.0%	○	D	12,400	10,430	84.0%	△	E					F				
平成26年度成果指標																																										
	目標値	実績値	達成率	結果																																						
A	55.0	56.2	102.0%	○																																						
B	95,000	102,783	108.0%	◎																																						
C	77.4	75.5	98.0%	○																																						
D	12,400	10,430	84.0%	△																																						
E																																										
F																																										
⑤ 基本事業の目標達成度 (平成26年度目標と実績との比較)		○=すべての目標値を達成 △=一部の目標値を達成 ×=すべての目標値を未達成																																								
		① 芸術文化活動のきっかけづくり	○	⑤																																						
		② 文化関係団体の育成	△	⑥																																						
		③ 文化財の保存・整備	○	⑦																																						
		④ 文化財の活用	×	⑧																																						

6 平成27年度の施策の取組方針 (昨年度マネジメントシートより)	7 平成28年度に向けた施策の課題・方向性
<p>■ 第30回国民文化祭鹿児島大会の開催年にあたるため、開催をきっかけにして文化活動に取り組む人数が増加し、市内の文化団体を活性化することで、多くの市民に関心を寄せてもらえるようにしていく。</p> <p>■ 国指定史跡「大隅正八幡宮境内及び社家跡(しゃけあと)」の保存管理計画の策定や市内の文化財の所在を確認するための計画的な現地調査を実施する。また、郷土芸能保存会の相互連携や活動しやすい環境づくりのため(仮称)霧島市郷土芸能保存団体連絡協議会の組織化を進める。</p>	<p>■ 国民文化祭が一過性のイベントにならないよう、芸術文化に興味・関心をもった市民の文化関係団体への加入促進を図り、文化の薫り高いまちづくりを推進する。</p> <p>■ 郷土の先人が成し得た偉業を市民に広く周知するシンポジウム等を開催し、市民が文化財を学び知る機会を提供する。また、新組織設立2年目となる「霧島市民芸能保存会連絡協議会」のさらなる活性化を目指す。</p>

基本事業No.	4-4-1	基本事業名	芸術文化活動のきっかけづくり	基本事業 主担当課	文化振興課
---------	-------	-------	----------------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）	
平成27年度に開催される第30回国民文化祭鹿児島大会などを通して、芸術文化活動に取り組むきっかけとなる各種事業を展開する。	
②対象	市民
③意図	芸術文化活動に取り組むきっかけが得られる

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	きっかけづくりの活動に参加した延べ人数	人	市が行ったきっかけづくりの活動実績	成り行き値	89,000	88,000	87,000	86,000	85,000	84,000
				目標値	90,500	91,000	91,500	92,000	92,500	93,000
				実績値	90,368	99,276	99,305			
				達成率	100%	109%	109%			
				結果	○	◎	◎			
B				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 過去3年間の実績値で最も高い平成21年度の92,930人を超えることを目標とした。

4 平成26年度基本事業の取組方針 **5 平成26年度基本事業の取組方針の達成状況**

<ul style="list-style-type: none"> ■平成27年度に開催される第30回国民文化祭に向けて、市民一人ひとりが芸術文化に取り組むきっかけが得られる事業を実施していく。 ■市民音楽祭や芸術鑑賞事業など、市民や児童生徒が芸術文化にふれるきっかけや関心を持つような取組を展開していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■きりしま美術展やきりしまフォトコンテストへの出品を広く呼びかけたり、指定管理者自主文化事業を含む各種文化関連事業の鑑賞を奨励したりして、市民が芸術文化活動に取り組むきっかけづくりができた。 ■きりしま美術展ジュニア部門への参加や、劇団四季の心の劇場の鑑賞を通して、児童生徒が芸術文化に触れる機会を提供できた。
---	--

6 平成26年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

A 「きっかけづくりの活動に参加した延べ人数」は、目標値を7,805人上回った。この要因としては、市民会館指定管理者の実施した自主文化事業の入場者が増加したことが主因であると考えられる。

7 平成27年度基本事業の取組方針 **8 平成28年度に向けた基本事業の課題・方向性**

<ul style="list-style-type: none"> ■第30回の国民文化祭が開催されることをきっかけに芸術文化活動に関心を持ってもらい、若年層の参加実践のできる事業を取り入れる。 ■生の優れた舞台芸術等にふれる機会を、より多くの市民に提供することで、将来にわたって、芸術活動に取り組むきっかけになることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ■国民文化祭を契機に、一人でも多くの市民が文化活動に取り組むよう、各種文化事業等の情報発信に努める。 ■小中学校での芸術鑑賞機会の充実を図り、児童生徒に優れた芸術、文化に触れる機会を提供する。
---	---

基本事業No.	4-4-2	基本事業名	文化関係団体の育成	基本事業 主担当課	文化振興課 観光課
---------	-------	-------	-----------	--------------	--------------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）

- 市民による自発的な芸術文化活動が積極的に行われるように支援する。
- 郷土芸能保存会の相互連携や活動しやすい環境づくりのため、「(仮称)霧島市郷土芸能保存協会」の結成を目指す。

②対象	・市民 ・芸術文化活動を行っている団体 ・郷土芸能を継承している団体	③意図	・芸術文化活動を通じ、親睦や交流が図られ、団体が活性化する ・郷土芸能を継承し広める
-----	--	-----	---

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名	単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
				成り行き値	220	215	210	205	200
A 芸術文化団体の団体数	団体	活動団体の活動実績	目標値	224	224	224	224	224	224
			実績値	221	220	189			
			達成率	99%	98%	84%			
			結果	○	○	△			
B 芸術文化団体に所属している人の数	人	活動団体の活動実績	成り行き値	3,500	3,400	3,300	3,200	3,100	3,000
			目標値	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600
			実績値	3,414	3,219	3,128			
			達成率	95%	89%	87%			
C 郷土芸能保存会の団体数	団体	活動団体の活動実績	成り行き値	39	38	37	36	35	34
			目標値	40	40	40	40	40	40
			実績値	32	34	36			
			達成率	80%	85%	90%			
D 郷土芸能保存会に所属している人の数	人	活動団体の活動実績	成り行き値	2,500	2,450	2,400	2,350	2,300	2,250
			目標値	2,550	2,550	2,550	2,550	2,550	2,550
			実績値	2,398	2,582	2,708			
			達成率	94%	101%	106%			
			結果	△	○	◎			

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

- A 団体の育成が非常に厳しい状況であることから、目標値は平成23年度実績の224団体を維持することとした。
 B 団体の育成が非常に厳しい状況であることから、目標値は平成23年度実績の3,614人の水準を維持することとした。
 C 団体の育成が非常に厳しい状況であることから、目標値は平成23年度実績の40団体を維持することとした。
 D 団体の育成が非常に厳しい状況であることから、目標値は平成23年度実績の2,556人の水準を維持することとした。

4 平成26年度基本事業の取組方針 **5 平成26年度基本事業の取組方針の達成状況**

■文化協会をはじめとする芸術文化団体への活動支援を行うとともに、平成27年度に開催される国民文化祭へ向けに様々な文化活動を進めていく。
 ■霧島市郷土芸能祭の開催や出演する場を提供することで、保存会の活性化を図る。また、仮称「霧島市郷土芸能保存団体連絡協議会」の発足に向けた取組を行う。

■国民文化祭の前に、音楽、美術、演劇などの各種文化関係団体が、自主公演や展覧会等を行い、多くの市民を巻き込んだ活発な文化活動を展開できた。
 ■それぞれの保存会にイベント等の出演機会を紹介するなど、団体の活性化に努めることができた。また、保存会相互の連携を綿密にする連絡協議会の発足に道筋をつけることができた。

6 平成26年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

- A 「芸術文化団体の団体数」は目標値を35団体下回った。この要因としては、新規加入団体もあったが、会員の高齢化等によりやむを得ず脱会となる団体が多かったことが考えられる。
 B 「芸術文化団体に所属している人の数」は目標値を472人下回った。要因はAと同様である。
 C 「郷土芸能保存会の団体数」は目標値を4団体下回った。この要因としては、活動休止中の団体の復活が2団体にとどまったことが考えられる。前年度からすると若干の明るい兆しは見られた。
 D 「郷土芸能保存会に所属している人の数」は目標値を158人上回った。この要因としては、活動の再開に伴い会員数が増加しているものと考えられる。

7 平成27年度基本事業の取組方針 **8 平成28年度に向けた基本事業の課題・方向性**

■活動支援を継続していく中で、国民文化祭の開催をきっかけとして、文化協会等のPR活動をさらに活発化するとともに、若年層に関心を持ってもらえる事業の開催内容の検討を進める。
 ■郷土芸能保存会の相互連携や活動しやすい環境づくりのため、(仮称)霧島市郷土芸能保存団体連絡協議会の組織化を進める。

■文化協会所属団体の活動内容を広く市民に周知する方策として、市ホームページへの掲載等を検討し、既存団体への新規加入会員の確保を目指す。
 ■「霧島市民芸保存会連絡協議会」で、民芸保存団体の課題や検討事項の共有化を図り、行政と一体となり解決策を模索する。

基本事業No.	4-4-3	基本事業名	文化財の保存・整備	基本事業 主担当課	文化振興課
---------	-------	-------	-----------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）

文化財を後世に遺すため、年次的に調査を実施するとともに、その成果の周知を図る。また、史跡等の環境整備や看板設置を進める。

②対象	文化財	③意図	適切に保存され後世に遺す
------------	-----	------------	--------------

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分						
				24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)	
A	指定文化財の数	件	文化振興課で管理する文化財台帳 (数は累計)	成り行き値	123	123	123	123	123	123
				目標値	124	125	125	126	126	127
				実績値	124	125	126			
				達成率	100%	100%	101%			
				結果	○	○	○			
B	周知の埋蔵文化財包蔵地の数	件	文化振興課で管理する文化財台帳 (数は累計)	成り行き値	523	523	523	523	523	523
				目標値	523	523	523	523	523	523
				実績値	523	523	530			
				達成率	100%	100%	101%			
				結果	○	○	○			
C	整備している文化財の数	件	文化振興課で管理する文化財台帳 (数は累計)	成り行き値	154	154	154	154	154	154
				目標値	156	159	160	162	164	166
				実績値	158	166	167			
				達成率	101%	104%	104%			
				結果	○	○	○			

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

- A 貴重な文化財については、調査を実施し、平成29年度までに127件の指定を目指す。
- B 文化財保護の基本理念は、現存する文化財を後世に引き継ぐことであるので、平成23年度実績値である523件の維持を目標とする。
- C 文化財の整備については、調査報告書を含め、平成29年度までに166件を目指す。

4 平成26年度基本事業の取組方針 **5 平成26年度基本事業の取組方針の達成状況**

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■平成24・25年に国指定となった「大隅正八幡宮境内及び社家跡」の保存管理計画の策定に向けた事業を進める。 ■大隅国建国1300年を契機として、大隅国府の解明にむけた発掘調査や開発行為に伴う緊急発掘調査を実施する。 ■鹿児島神宮社殿の修復や高座神社社叢のイチイガシ、福山のイチヨウの養生など文化財の保存に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ■専門家を招聘しての策定委員会を開催し、調査研究を進めることができた。 ■弥勒院跡の第7次、8次調査を実施し、新たな遺構等を検出したほか、開発行為担当部局との協議、調整を順調に進めることができた。 ■建造物や天然記念物を年次計画に基づき修復し、貴重な文化財の保存、継承ができた。 |
|--|---|

6 平成26年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

- A 「指定文化財の数」は目標値を1件上回った。これは、「正宮造替の石灯籠」が県指定となったことによる。
- B 「周知の埋蔵文化財の包蔵地の数」は目標値を7件上回った。これは確認調査の結果、新たに保存すべき遺跡が増加したことによる。
- C 「整備している文化財の数」は目標値を7件上回った。要因としては、看板設置や標柱の建て替えなど予定した箇所数よりも多くの整備を行ったことが考えられる。

7 平成27年度基本事業の取組方針 **8 平成28年度に向けた基本事業の課題・方向性**

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■「大隅正八幡宮境内及び社家跡(しゃけあと)」の保存管理計画を策定する。 ■周知の埋蔵文化財包蔵地や指定地内における開発行為(民間・公共)を事前に把握し調整することで、事業の推進と埋蔵文化財の保護に努める。 ■鹿児島神宮社殿や旧田中家別邸等の修復を実施し、文化財の整備を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ■「大隅正八幡宮境内及び社家跡(しゃけあと)」の活用計画に沿って、市民の史跡に対する認知度を高め、公有地化を図るための気運を醸成する。 ■周知の埋蔵文化財包蔵地や指定地内における開発行為(民間・公共)について、事前協議してもらうよう広報に努める。 ■劣化が進む石造物について、適切な保護、修復ができるよう努める。 |
|---|--|

基本事業No.	4-4-4	基本事業名	文化財の活用	基本事業 主担当課	文化振興課
---------	-------	-------	--------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）

史跡めぐりなどの実施や、郷土館等で魅力ある特別展や各種イベントを開催することにより、郷土の歴史に対する市民の興味・関心を高める。

②対象	市民	③意図	文化財を学び郷土の歴史を正しく理解する
-----	----	-----	---------------------

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度 (目標年度)
A	郷土の歴史を学んだ市民の 数	人	文化財の学習活動や郷土館などの延べ参加(利用)者数	成り行き値	8,600	8,650	8,700	8,750	8,800	8,850
				目標値	8,700	8,800	8,900	9,000	9,100	9,200
				実績値	8,323	9,006	6,930			
				達成率	96%	102%	78%			
				結果	○	○	△			
B				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

A 市内史跡めぐりや講演会、特別展の開催など、学ぶ機会を提供し、毎年100人ずつ郷土の歴史を学んだ市民の数を増やすことを目指す。

4 平成26年度基本事業の取組方針

■国指定となった「天降川流域の火砕流堆積物」や「大隅正八幡宮境内及び社家跡」を中心に史跡めぐりや講演、出前講座等を実施して、霧島市の歴史や文化を市民に幅広く周知する。
 ■九州地区市町村文化財保存整備協議会を霧島市で開催することで、県内外に本市の歴史と文化を発信する。

5 平成26年度基本事業の取組方針の達成状況

■きりしま歴史散歩(市内史跡めぐり)や、文化財少年団活動は実施内容を見直すとともに、FMきりしまや新聞などのメディアの活用により、応募者数が急増した。市民や本市の文化財に関心を寄せる人々に効果的に文化財をPRすることができた。
 ■九州地区市町村文化財保存整備協議会では、本市の郷土芸能を披露したり、史跡の案内を行い、各地の行政関係者に本市をアピールすることができた。

6 平成26年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

A 「郷土の歴史を学んだ市民の数」は目標値を1,970人下回った。要因としては、「大隅国建国1300年記念事業」終了により、イベント、各種講座等の参加者が減少したことが考えられる。

7 平成27年度基本事業の取組方針

■市民が郷土の歴史や文化への認識を深め、愛郷心を高揚するとともに、文化財を大切にすることを促すため、史跡めぐりや講演会、企画展などを行う。
 ■平成28年度(2016)は「天降川川筋直し」をして350年となることから、企画展や講演会の実施に向けた準備を行う。
 ■文化財の記録保存を行うとともに、その成果をハンドブックとして刊行するための、現地調査を年次的に実施する。

8 平成28年度に向けた基本事業の課題・方向性

■文化財にこれまで関心をもっていない市民を、一人でも多く「きりしま歴史散歩」や「郷土館めぐり」などの各種事業に取り込むために、事業のさらなる工夫、改善を図る。
 ■「天降川川筋直し」から350年目を迎えることから、防災なども含む多角的視点のイベントを開催する。
 ■石造物などの継続的な調査を実施し、将来的なハンドブック刊行に向け資料蓄積を行う。